

関東学連 2018 年度ロングエリート選考方法 ver.3

(赤字修正) (赤字下線部再修正)

2018 年 7 月 23 日

関東学生オリエンテーリング連盟幹事会

1. 概要

以下の文章は、今年度中止となったロングセレの代わりとなるエリート選考方法について伝えるとともに、そこに至った経緯を簡単にまとめたものである。これは、7月22日に関東学連の渉外・幹事が集まって開催された話し合いにて合意を得たうえで、関東学連規約の緊急事項の規定に従って幹事会の権限で決定された。

なお、上記の話し合いは前幹事長上野、元幹事長瀬川と、若干名の傍聴者の立会いのもと行われた。

2. 選考方法

【男子】

- 1) 各大学内で実力順の名簿を作成する。作成方法は各大学に委ねる。
東大 OLK、KOLC、早大 OC の 3 クラブは、クラブで一つの名簿を作成する。
- 2) 名簿の上から順に、大学ごとに割り振られた枠(※①)(以下、大学枠)の数だけ選手をセレクション通過とする。クラブにおいては、クラブを構成する大学が持つ大学枠を合計したものをクラブ枠とし、その数だけクラブ名簿の上から順にセレクション通過とする。
- 3) 関東学連枠 **32 枠**のうち、大学枠として割り振られなかった残りの 4 枠を推薦枠とする。推薦はセレ推薦規約の立候補実績を満たしていなくても提出可能とする。また、セレ未出走理由は必要ない。推薦の選考は、「現時点の実力で学連枠を獲得できるか (学連枠を取れない場合も現時点での実力)」を第一基準として第三者機関に委託する。
- 4) 各大学は「大学(クラブ)内名簿」を、推薦立候補者は「推薦立候補用紙」を、7月26日(木) 23:59までに幹事長渡辺までメールで送信する。提出された大学内名簿は、7月27日(金)に関東学連内で公開されたのち、7月28日(土)に、推薦立候補用紙とともに第三者委員会に提出される。
- 5) 第三者委員会によって推薦の選考が完了したのち、8月3日(金)に全選考結果を改めて公開する。

- ・各大学の判断により大学枠の返上も可能。返上された大学枠は推薦枠に追加される。
- ・推薦立候補用紙の書式は関東学連ホームページにすでに掲載されているものを使用。
- ・大学(クラブ)内名簿の書式は指定しない。
- ・現在ロングセレ実行委員会に第三者委員会として推薦の選考を依頼中。

【女子】

- 1) ロングセレ推薦規約の立候補基準となる実績を満たす稲垣（千葉 4）、立花（**実践 4**）、村田（フェリス 4）の **3名**を、実績枠として通過させる。
※木村（立教 4）について実績を満たしたとしていたのは誤りでした。訂正します。
- 2) 関東学連枠 9 枠のうち、残りの **6 枠**を推薦枠とする。推薦については男子と同様。推薦立候補用紙の提出期限は 7月26日（木）23：59とする。

※① 大学枠の算出方法

- i) {セレクション通過の可能性を十分持っていると思われる選手の人数}
= (スプセレの各レーン上位 28 人計 56 人) + (スプセレ免除者)
からロングセレ免除者の数を引いた人数を大学ごとに集計する。
- ii) i で得られた値を使って大学ごとの比を求め、それに従って大学枠の合計が 31 を超えないように枠数を割り振る。小数点以下は切り上げ。

3. 上記の選考方法に至った経緯

詳細は追って公開される議事録を参照、もしくは各校の渉外に確認していただきたい。
以下には簡単な流れのみ記す。

3-0. 前提

前提として、インカレ実施規則の規定により 8 月 3 日（金）までにエリート出場選手を確定させなければならない。北東セレが 8 月の第二週に行われることを考慮しても、期限は最大まで伸ばせたとして 8 月 12 日前後である。しかし極力期限延長は避けたい。

となると、本日（7 月 22 日）中に選考方法を決定し、今週（7 月 23 日～7 月 27 日）にそれを施行し、来週末（7 月 28 日）に行われる関東学連総会にてエリート出場者をほぼ確定させることが理想である。これに沿って、本日は何としてでも選考方法を決定することを目指す。

3-1. アイデア出し

ブレインストーミング方式で考えられる案を実現可能性は無視して網羅的に集めた。以後はここで出たアイデアを各自が共有したうえで話を進めていく。

3-2. グループに分かれて、出したアイデアの中から実現可能かつ有効な案を各自検討する

少人数で、各大学の都合や立場、それぞれのメリット・デメリット等を総合し、一番理想的だと思う案を、1 で出たアイデアをもとに作成してもらった。その後共有した。

3-3. 代替レースについて検討

2 で最も人気であった代替レース開催案について検討。具体的には、北東インカレ併催、同一トレイン・同一コースで複数日にわたって開催、など。大規模での開催は確実に無理な

ので、規模を狭める（参加者をボーダー付近の人に限定する）などして開催できないか検討した。前回の総会で確認はしていたものの、再度各団体の予定を照合し開催可能日程を模索した。

最終的には、期限内に代替レースを行うことは現実的ではないとの流れで落ち着く。

3-4. 過去のレースを基準とすることの検討

どのレースを基準とするか、複数大会を基準とするならば大会ごとに重みをつけるか、過去のインカレを参照する場合エリート・一般・Fクラスの扱いをそれぞれどうするか、経験者の新人の扱い、などなど、基準もなく検討しなければならない事柄が多すぎて事実上断念。

3-5. その他の案についての検討

主に「千葉大案」と「大石グループ案」について。それぞれの詳細は議事録か各渉外を参照。どちらも一長一短だが、シンプルで直感的であるなどの理由でやや後者が好まれる。

3-6. 男女で独立して選考方法を考える

瀬川元幹事長の助言もあり、以降男女で分かれて選考方法をつめることに。

3-7. 女子選考方法の決定

女子の加盟している大学による話し合いにて、上述の方法に決定。

3-8. 男子選考方法の決定

男子の加盟している大学により、「大石グループ案」を試し、微調整を加える。各大学の渉外に確認してもらい、感覚的にも受け入れられる数字であるということで、採用。決定。

3-9. 総括

再び全体にて、お互いの選考方法の確認、推薦書類等の提出期限の確認を行う。

4. 補足

Q. なぜスプリントセレなのか

→現在のオリエンテーリング実力者分布に従って公平に割り振ろうとしたとき、スプリントセレ結果を用いることが一番現状を反映させられると考えた。スプリントとフォレストの差は、大学枠の計算に用いる対象をボーダーの2倍（トップ比150%などを参考に決定）までと広めに設定することで、そこまで大きく影響することはないと考える。また、多くの参加者が同一クラスを走っているため、他の大会を参考にするより枠計算がシンプルであることも大きな利点と考えた。

Q. なぜ男女で選考方法が違うのか

→男女で枠数や大学数など大きく状況が異なり、それぞれに適した方法を採用するため。

Q. なぜ男子の選考方法において、クラブ単位なのか

→クラブ単位のほうが少数大学にも幅広く枠を配分できると考えた。

他に質問等あれば幹事長渡辺（taka124120@gmail.com ○→@）までご連絡ください。

以上